

## 国内学会参加報告書

人間文化研究科 博士前期課程 物理科学専攻  
放射線物理学研究室 2年 井上洋子

大学教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」プログラムの支援を受け、今春3月18日(日)～21日(水)に鹿児島大学にて開催されました「日本物理学会 2007年 春季大会」に参加し研究発表を行ってまいりました。日本物理学会は130年の歴史と2万人の会員を持つ大規模な学会です。主な活動としては、春と秋に全国各地のいずれかの大学を会場として研究講演会、シンポジウム、そしてポスターセッションの開催、また、月に一度の学会誌刊行が挙げられます。

この2007年春季大会で、私は自分の所属する2分野、「放射線物理」分野と「原子・分子」分野の講演を4日間聴講し、また自らの研究発表を「原子・分子」分野にて行いました。ここで私が聴講いたしました講演、シンポジウム講演について報告いたします。まず、「放射線物理」分野では25件の講演と6件のシンポジウム講演が行われました。講演の内容はクラスターイオンに関する研究とイオンと固体表面での反応に関する研究が多くを占めておりました。また、シンポジウム講演では、理研、産総研そして原子力機構等の最先端の場で活躍されている研究者の方々の講演を聞くことが出来、非常に有益でありました。次に「原子・分子」分野では58件の講演があり、その内容は放射光・レーザーを用いた研究からイオン・多価イオン・重イオンを用いた研究まで様々な内容の話聞く事が出来ました。私と類似する研究テーマを持ち、しかし私とは違う側面から研究・実験を行っている方もおり、研究に対して良い刺激を得る事も出来ました。

今回、私は「低速 C, N, O 多価イオン- H<sub>2</sub>, N<sub>2</sub> 分子衝突における電荷移行反応」という研究題目で発表を行いました。内容は、電子を二個以上剥ぎ取られたイオンと二原子分子を非常に低速度で衝突させ、衝突後のイオンの持つエネルギーを見ることにより、衝突時に両者の間で移動した電子のエネルギー準位を調べるというものです。発表時間10分に対しパワーポイント14枚でのプレゼンテーションを行い、発表後には5分間の質疑応答に対応いたしました。質疑応答では、様々な質問コメントを頂くことが出来、非常に有意義な時間でありました。自分の研究を発表することで、自分の知りたいことを研究するのはもちろんですが、人に評価される研究、また人に刺激を与えることの出来る研究を行っていきたいと感じました。そして、次回の物理学会秋季大会にも参加し研究発表を行いたいと考えています。

最後になりましたが、国内学会参加の為に大学教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」プログラムより支援して頂いた事を非常に嬉しく思っています。この場をお借りしてお礼申し上げます。